

OScN レポート

第44回 全国学校安全教育研究大会 東京都学校安全教育研究大会

大会名	第44回 全国学校安全教育研究大会 東京都学校安全教育研究大会
大会主題	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる 幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～
日時	2020年 2月14日(金) 9:30～16:45
場所	東京都調布市立第五中学校 (平成30年度/令和元年度 東京都教育委員会安全教育推進校)
参加人数	約300名
主催	全国学校安全教育研究会/東京都学校安全教育研究会
後援	文部科学省/東京都教育委員会/調布市教育委員会 独立行政法人 日本スポーツ振興センター 日本安全教育学会/全国国公立幼稚園・こども園長会 全国連合小学校校長会/全日本中学校校長会/全国高等学校長会

～ 目次 ～

1～2	ページ	概要 ・ 研究大会に参加して
3～4	ページ	時程
5～8	ページ	記念講演の要点
9～11	ページ	公開授業指導案の一例
12	ページ	資料写真 会場、授業の様子

研究大会に参加して

交通教育 NPO OSCN じてんしゃスクール

代表 片山 昇

主催の全国学校安全教育研究会は、学校教育の中での安全教育推進を目的として昭和51年に創設された。今大会は、30年ぶりに中学校での開催となり、日本全国から、約300名の幼保小・中高の教職員・安全教育関係者の参加があった。子どもたちが安全に安心して楽しく学校生活をおくれるように、幼保小中高の安全教育担当者が、教員が学ぶ機会として本会の位置づけである

特筆すべきは、有識者の講演に加えて、各教室で安全教育についての公開授業が実施されることである。

公開授業のテーマは、「交通安全」「災害安全」「生活安全」等の各分野があった。内容も多岐に渡り、「自転車の交通安全」「防災、減災」「共助」「地震 地域の連帯」「一次救命」「防災」「交通安全地域マップ」「ファーストエイド」「地震の仕組み」等。

今回は、中学校での開催だが、校区の近隣小学校と連携し、小学5年生児童が中学2年生のクラスに入り、「自転車の ながら運転の危険性を校区の小学生に伝えよう」というテーマで、中学生が先生役となり、小学生児童に伝える活動を「学級活動」として行う授業もあった。とても興味深く、参観した。

中1～中3まで全クラスで取り組まれた「安全教育」に関する授業は、「理科」「英語」「社会 公民」「道徳」「総合的な学習の時間」「学級活動」「保健体育」と、多領域で取り組まれ、交通安全も含めて「安全教育」分野の教育には多面的な分野への理解と知識の学習が必要なことを伺わせる内容で、大変参考になった。

小学校や中学校の教育現場では、増加傾向にある様々な教科や指導との兼ね合いから、各教科の授業時数も限られていく。その中で、児童生徒の将来の生活にも不可欠な「安全教育」について、今回の中学校のように、各学年指導計画に5～10時間を確保し、その1時間を今回の公開授業とされたことは、私自身、小学校教育現場経験者、そして交通安全教育実践者としても、現在の日本社会の状況を鑑み、特筆に値する授業だと感じた。

講演では、元中学校教員の文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課所属の安全教育調査官 森本晋也氏による「今、求められる学校安全の充実に向けて」や、山形大学大学院教育実践研究科教授の村山良之氏による「ハザードマップと地形を読む―学校防災の自校化―」、そして、開催校や千葉県安全教育研究会の研究・実践発表があった。

いずれの講演や発表も、学校での「安全教育」を推進する上では、「学校」「家庭」「地域」の連携が不可欠であることや、子どもたちが自ら、危険を予測し、予防や減災の為に、適切な行動をとれるような教育の在り方を問う内容であった。その上では、教育関係者が当事者意識を忘れずに、児童生徒と共に、常日頃から「各場面での安全を生み出す行動について考える機会」を創ることの大切さに触れられている内容が多かった。

この大会に初めて、参加した私にとって、学校教育現場等での交通安全教育に活かしたい内容が多々あった。その中から主に、聴講した記念講演と、見学した公開授業について、以下に報告する。

<当日の時程> ※大会プログラムより抜粋

時 程	9:30	10:00	10:30	11:20	12:20	13:25	14:15	14:20	15:20	15:30	16:30	16:45
受付		全国理事会	全体会	記念講演	昼食・移動	公開授業	移動	(アトラクション) 研究発表	講評	講演	事務連絡	

(受付は全日行っています)

(1) **全国理事会** 10:00～10:30

(2) **全体会** 10:30～11:20

1 開会の言葉

2 会長挨拶

3 来賓挨拶

①文部科学省 ②東京都教育委員会 ③調布市教育委員会

④一般財団法人日本交通安全教育普及協会

⑤独立行政法人日本スポーツ振興センター

4 閉会の言葉

(3) **記念講演** 11:20～12:20

演 題 「今、求められる安全教育の充実に向けて」

文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課

安全教育調査官 森本 晋也 先生

(4) **公開授業** 13:25～14:15

※本校校区の多摩川小学校と連携した授業を公開します。

学年	教科・領域	内容	安全教育の領域
中1	理科	地震「地面の揺れの広がり方」 ●東京大学地震研究所が作製した実験装置を活用します。	災害安全
	英語	共助の取組 ～ファーストエイドスキットビデオをつくろう～	生活安全
	学級活動1	「第五中学校交通安全地域マップ」から交通安全上の問題点をみつけよう	交通安全
	学級活動2	交通安全地域マップから交通安全上の問題点をみつけ、発信しよう	交通安全
	学級活動3	スマートフォンやSNSの正しい使い方を発信しよう	生活安全
	道徳	「世界中の人に恩返ししたい」 ●防災教育教材「防災ノート～災害と安全～」中学校版（令和元年度 東京都教育委員会）を活用します。	災害安全
	総合的な学習の時間	一次救命処置「倒れている人を見たら」	生活安全

学年	教科・領域	内容	安全教育の領域
中2	保健体育	自転車の「ながら運転」の危険性を考え、その危険性を伝えよう 1	交通安全
	保健体育	自転車の「ながら運転」の危険性を考え、その危険性を伝えよう 2	交通安全
小5 中2	学級活動	自転車の「ながら運転」の危険性を校区の小学生に伝えよう ●中学生が学んだことを校区の多摩川小学校の児童に伝える活動を行います。	交通安全
中3	社会 公民	防災、減災への取組と課題	災害安全
	英語 1	共助の取組 ～ Save Yourself, Save Others ～ ●2学級3展開で少人数指導を行います。 ●地域在住のネイティブスピーカー、米軍消防隊が協力します。	生活安全
	英語 2		
	英語 3		
道徳	地域の連帯感「M 7.3 子どもたちの見たもの」	災害安全	

(5) 研究・実践発表 14:25～15:20

①「学校、家庭、地域社会において他者や社会の安全に貢献できる生徒の育成
～中学生による主体的な安全文化の啓発と地域の安全文化の構築を目指して～」

東京都調布市立第五中学校

②千葉県安全教育研究会「千葉県の学校安全教育」

(6) 講 評 15:20～15:30

東京都教育庁指導部

(7) 講 演 15:30～16:30

演 題 「ハザードマップと地形を読むー学校防災の自校化ー」
山形大学大学院教育実践研究科教授 村山 良之 先生

記念講演の要点

記念講演「今、求められる学校安全の充実に向けて」を聞いて

(講演者：文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官 森本 晋也氏)

聴講者としてのまとめ：片山 昇

※ 講演内容聞き取りと配布資料をもとにまとめ

安全な社会を実現することは、全ての人々が生きる上で最も基本的かつ不可欠なことである。安全教育は、子どもたちの生涯にわたる安全に関する資質・能力の基礎を培うものであることに加え、子どもたちが社会人となり、様々な場面での活躍を通じて、社会全体の安全意識の向上や安全で安心な社会づくりに寄与されることが期待される。安全教育は、次代の「安全文化」を創造するという意義も担っている。

児童生徒の命を守り、質の高い安全教育を行っていくためには、教職員をはじめ、家庭や地域住民、教育行政、関係機関の職員が、学校安全の意義や必要性を理解して取り組んでいくことが必要である。

具体的には、学校での安全教育は、学校の教育活動全体（各教科内で横断的に）で、系統的・体系的に織り込まれるよう計画的に取り組むべき教育である。

また、安全教育の効果を高めるためには、危険予測の演習、視聴覚教材や資料の活用、地域や校内の安全マップづくり、学外の専門家による指導、避難訓練や応急手当のような実習、誘拐や傷害などの犯罪から身を守るためにロールプレイングを導入するなど、様々な手法を適宜取り入れ、児童生徒等の安全上の課題について、自ら考え主体的な行動につながるような工夫が必要だ。

様々な災害や交通事故、犯罪が生じる現代において、学校・家庭・地域・関係機関が連携して幼児、児童及びせいとの命を守るとともに、全ての児童生徒等に安全に関する資質・能力を身に付けることを目指す学校安全の充実が、今、求められている。

(1) 学習指導要領の改訂と「第2次学校安全の推進に関する計画」について

● 第2次学校安全の推進に関する計画と新学習指導要領について

学校保健安全法（第3条）に基づき平成29年3月24日に、「第2次学校安全の推進に関する計画」が閣議決定された。第2次計画において、児童生徒等の安全を取り巻く状況を踏まえ、目指すべき姿として、次の2点が掲げられた。

- ① すべての児童生徒等が安全に関する資質・能力を身に付けることをめざす
- ② 学校管理下に置ける児童生徒等の事故に関し、死亡事故の発生件数については限りなくゼロとすることを目指すとともに、負傷・疾病の発生率については傷害や重度の負傷を伴う事故を中心に減少傾向にすることを目指す

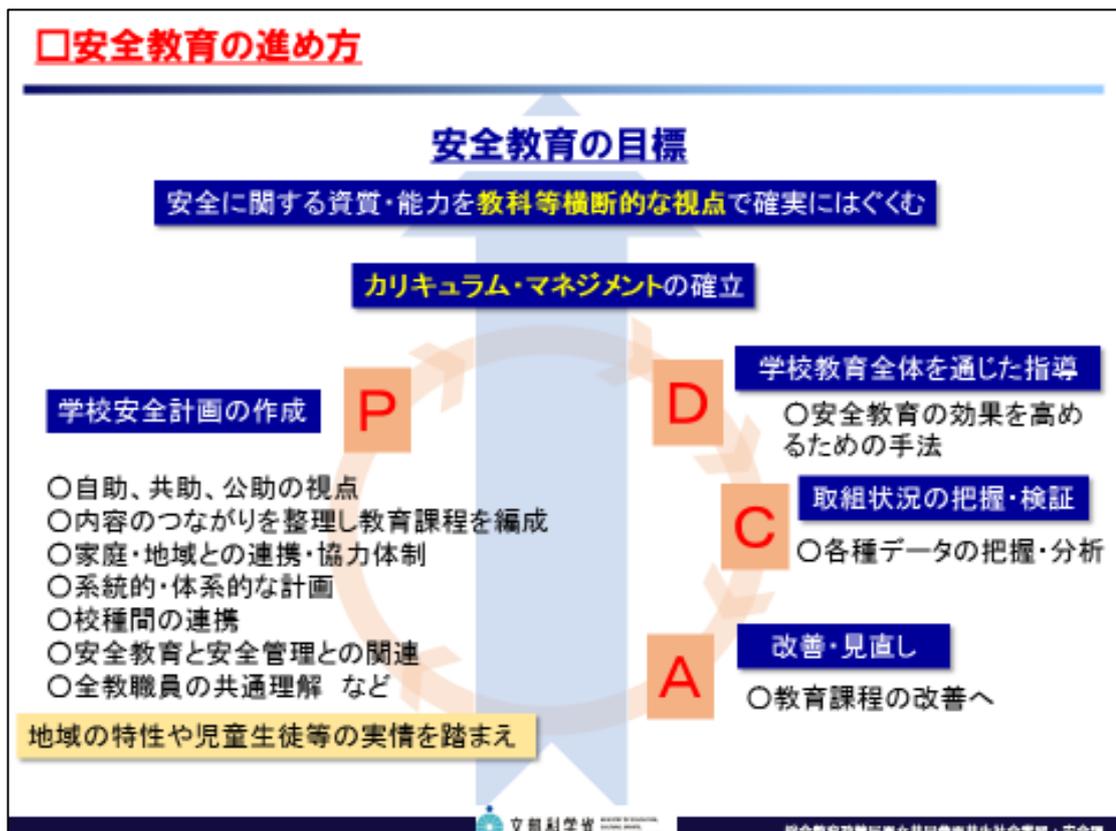
この実現のために、5つの推進方策の柱と12の施策目標を設定し、国・学校設置者・学校等が具体的取り組みを推進することとされた。

＜5つの推進方策の柱＞

- ①学校安全に関する組織的取組の推進
- ②安全移管する教育の充実
- ③学校の施設及び設備の整備充実
- ④学校安全に関するPDCAサイクルの確立を通じた事故等の防止
- ⑤家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進

- 平成29年の新学習指導要領と、同年の「第2次学校安全の推進に関する計画」の閣議決定による改訂を受けて、平成31年3月31日に、学校安全資料『『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育』も改訂された。今回の改訂では、「安全教育」について、学校の教科教育の中で、縦糸：内容の系統性と、横糸：教科横断的な学習、が盛り込まれたので、ぜひ教育現場で生かして欲しい。
- 地域での自己肯定感の高い児童の育成が大切
Social Support 認知の高い子どもは、自分自身の安全についても気を配る傾向がある。だからこそ、家庭と地域での連携した安全教育が必要。「学校が地域をつくり、地域が学校をつくる」という視点が重要。
- 安全教育推進のスケールや評価は、ISS (International Safe School) 認証 (一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構) という制度もあるので参考にして欲しい。

※ (下図) 当日の資料より「安全教育の進め方」について



(2) 森本氏自身の震災時の中学教員としての経験から

● 岩手県釜石市の中学校に教員として勤務していた際に、防災教育と避難教育を現実感と緊張感をもって、具体的に「なぜ地震時に津波が発生し、逃げなければならないかのメカニズムを学ぶような教育を実践していた。3.11の震災後に、自発的に避難行動を取れて助かったという話を、中3の女子生徒のヒヤリングからわかった。

この生徒は、理科の時間に直下型地震の状況について具体的に学び、この学びでの経験値から今回はさらに大きな津波が来ると感じて逃げた。ということである。

生徒は、その瞬間に以前学習した、大規模な被害をもたらす「プレート境界型の地震」が発生した、と感じ取ったというのである。これは、教科横断的な教育がもたらした思考と行動であったと思う。

<同日の講演者 山形大学 村山良之氏による補足>

上述の生徒の言（震災時に感じたこと）「この揺れは、緊急放送されたようなマグにチュード6なんてものじゃない。もっと大きなものだ。ということは、もっと大きな津波が来るに違いない。だから、逃げなくてはならない。」そして、この生徒は、高台に避難し一命をとりとめた。

このような生徒を育てたい。そのためには、「逃げるという避難訓練」だけでは十分でなく、「地震発生メカニズムを体験的に学び、どういった状況下で、なぜ逃げなくてはならないか。」を、教科横断的な多面的で、体験的な学習を通じて、学ぶ機会を創ることが重要。

(3) 交通安全教育について

● 「交通安全」についても、今回の指導要領の改訂の中で、小中で連携して取り組まれるべき内容として作られている。言わば、義務教育時期を通じての、教科指導の縦の系統性が創られたということである。

● 交通安全についても、教科教育を通じて、なぜ危険なのかを考えさせる教育が大切

● 子どもの飛び出し傾向の事例として

飛び出し事故原因は、「一度、止まらない」、「進路の左右や死角部分を見ようとしない」。

子どもは、死角のある曲がり角等で、見えている部分の進路前方に車などが確認できなければ、「安全」と錯覚してしまう傾向がある。死角の部分に、「何かが隠れているかもしれない、乗り物や人が進んでくるかもしれない」という予測をして考えることができるようになるような、繰り返しの訓練教育が大切。

● 石田敏郎「交通事故学」(新潮社)より 「そもそも人間にとって、動くものの速度や距離の見積もりは苦手である。その上、心理や生理、環境によっても対応が違ってくる。」時速4kmの歩行的移動速度の世界で何百万年も生きてきた人間は、そもそも乗り物の速度の世界に視覚聴覚がついていけない。だからこそ、その能力を補うような教育が不可欠である。

- 交通事故についても、子どもが被害者となるのは減少傾向ではあるが中1や高1では激増傾向である。引き続き、中学生や高校生に交通事故状況のデータを用いて教育指導する必要がある
- 安全教育上の指導では、体験的訓練が大切
10歳以下の子どもたちは、安全行動の訓練で、繰り返しの練習こそ大切。また、善悪の区別なしに大人の交通行動を模倣してしまう傾向があり、特に小さな子どもは見て、危険や安全を認知する行為の点で未熟である。

(4) 文科省の学校安全ポータルサイト

文部科学省では、学校安全に関する参考資料や様々な情報の一層の活用を促進するために、学校安全ポータルサイト「文部科学省×学校安全」を開設・運用している。
ぜひ、学校安全の充実にお役立ていただきたい。

<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/index.html>

The screenshot shows the official portal for school safety in Japan. At the top, there's a navigation menu with categories like '都道府県・政令市教育委員会作成資料一覧' (List of materials created by prefectures/cities), '文部科学省作成資料・取組・事業' (MEXT materials/projects/initiatives), '今月のニュース' (This month's news), '表彰制度' (Award system), '研修会情報' (Seminar information), and '関連情報へのリンク' (Links to related information). The main header features the MEXT logo and the text '文部科学省 × 学校安全 School Safety'. Below the header, a large banner titled '都道府県・政令市教育委員会作成資料' (List of materials created by prefectures/cities) provides an overview of the resources available, including materials on life safety, traffic safety, disaster safety, school safety plans, and emergency management manuals. A prominent orange button labeled '都道府県・政令市教育委員会作成資料一覧' (List of materials created by prefectures/cities) is visible. A white box below the banner contains a message: '当サイトは、学校安全のために、文部科学省や都道府県等で実施している取組やこれまでに作成した資料などを掲載しています。各地域で取り組まれている学校安全の実践事例等を共有し、防災教育を含む安全教育の更なる充実を図るために、情報発信を行っています。' (This site is for school safety, featuring materials and initiatives from MEXT and prefectures. We share practical examples of school safety from various regions to further improve safety education, including disaster prevention education.) Below this, the 'What's New 新着情報' section lists updates: '3月2日 2020' (Today's news 'March 2020' published, including 'Local cooperation for school safety'); '2月18日 2020' (Updated list of prefecture/city materials, including 3 prefecture materials); '2月18日 2020' (Added materials to MEXT materials/projects/initiatives, including 'School safety support project' and 'Disaster prevention education project' results); '2月18日 2020' (Updated seminar information, including 'School safety support project', 'School safety promotion project', and 'Prefecture/city seminar/seminar schedule' for fiscal year 2020); '1月24日 2020' (Added materials to MEXT materials/projects/initiatives, including 'School safety support project' and 'Disaster prevention education project' materials). On the right, the '2月 アクセスランキング' (February Access Ranking) section lists top documents: 1. '学校事故対応に関する指針 (概要版)' (MEXT materials/projects/initiatives); 2. '学校事故対応に関する指針 (全体版)' (MEXT materials/projects/initiatives); 3. '「生きる力」をはぐくむ学校の安全教育' (MEXT materials/projects/initiatives); 4. '【通知】「登下校防犯プラン」について' (MEXT materials/projects/initiatives).

公開授業指導案の一例

私も参観した教科横断的な視点で展開された当日の公開授業の指導案の1つ

(当日の配布資料より抜粋。教諭名は伏せてあります)

第2学年 保健体育 保健分野【交通安全】 場所 屋外運動場(雨天 体育館)
自転車の「ながら運転」の危険性を考え、その危険性を伝えよう 1

指導者 主任教諭 ○○ ○○

1 指導のねらい

交通事故による傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを、数学的、科学的な知識及び技能を活用しながら考えることができるようにする。

また、第3学年理科の内容である力学的エネルギーの学習につなげ、本時の指導内容の深化を図る。 【知識及び技能・思考力、判断力、表現力等】

傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、他者や社会に伝えようとする意欲や態度が向上させる。 【学びに向かう力、人間性等】

2 学習指導要領との関連

保健体育 保健分野(3) 傷害の防止 交通事故の危険予測と回避

3 安全に関する視点

学校、家庭、地域社会において他者や社会の安全に貢献できる生徒の育成を目指す。これからの学校における安全教育には、主体的に安全文化を構築しようとする強い意気込みや意欲、行動力をもつ生徒の育成が必要であり、将来、地域社会で安全文化を守り続ける人材が、事件や事故を限りなく0(ゼロ)に近付けることに大きく貢献すると考える。

4 関連する教科等の内容

小学校算数	「速さ」「変化と関係(比例、反比例)」
小学校体育	「交通事故の防止」
中学校数学	「比例、反比例」「一元一次方程式」
中学校理科	「運動とエネルギー」
中学校特別活動	学級活動「安全な生活態度や習慣の形成」
中学校美術	「交通安全のポスターを作ろう」
中学校国語	「交通安全に関わる標語を考えよう」

5 指導計画 < 10時間 + 1時間 (特別活動) >

時間	学習内容	評価規準
1	傷害の発生と要因	傷害, 健康に関する資料を見たり, これまでの生活を振り返ったりしながら学習活動に取り組んでいる。
2	交通事故の発生と要因	傷害の発生要因について理解したことを言ったり, 書き出したりしている。交通の防止について, 課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。
3 【本時】	交通事故の危険予測と回避	交通事故の防止について, 既習内容や経験などから比較したり, 関係を見付けたりするなどして, 筋道を立ててそれらを説明している。
4	交通事故防止	交通事故の防止について, 危険の予測やその回避の方法を考え, 意欲的に他者や社会に伝えようとしている。
5	犯罪被害の防止	犯罪被害の防止について, その回避の方法を考え, 意欲的に他者や社会に伝えようとしている。
6	自然災害の一次災害と二次災害	自然災害の一次災害と二次災害について理解し, 課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。
7	自然災害による傷害の防止	自然災害について, その回避の方法を考え, 意欲的に他者や社会に伝えようとしている。
8	応急手当の意義と方法	応急手当の必要性や方法について理解している。
9	心肺蘇生 (実技)	心肺蘇生についての知識を身に付けるとともに, 応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を選択することができる。
10	直接圧迫止血法 包帯法 (実技)	止血法, 包帯法についての知識を身に付けるとともに, 応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を選択することができる。
関連	(特別活動) 交通安全啓発活動	交通事故から身を守り安全に行動するための必要な知識・技能を身に付ける。社会の一員として学習したことを積極的に伝える。

6 本時の展開

(1) ねらい

交通事故による傷害は、人的要因、環境要因などが関わって発生することを体験的に理解する。
既習内容を活用し、自転車の「ながら運転」の危険性についての課題意識をもつ。

(2) 展開

	学習活動・学習内容	支援・留意点 ◎評価
導入	<p>○生徒が経験した道路歩行中に感じた自転車の危険について振り返る。</p> <p>発問「道路歩行中に感じた自転車の危険な運転を思い出しましょう。」</p> <p>発問「危険な運転のうち、交通事故の加害者になる可能性の高い場面を挙げましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 危険な運転について個人で振り返りをしてから、小集団で危険な場面を整理する 交通安全教材等を活用し、具体的な場面を提示する 体験については、運動場又は屋内運動場等で行う。ラインを引き仮想道路上を走行する
関連	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> なぜ、自転車の「ながら運転」が危険なのだろうか考えよう </div> <p>○スマートフォン「ながら運転」の体験</p> <p>○体験によって気付いたことと危険性についての意見交換</p> <p>発問「『ながら運転』をした場合とそうでない場合の違いを挙げましょう。」</p> <p>発問「時速15kmで5秒間、『ながら運転』した場合に何m進むでしょうか、また、その間、どのような危険があるでしょうか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進行方向の左右に適切な物体を置いたり人を配置したりして、「ながら運転」をした場合としない場合の見え方を比較できるようにする 距離の求め方を確認する <p>◎「ながら運転」中は、見えているつもりでも、実際は見えていないことを様々な例を挙げながら認識することができている</p>
まとめ	<p>○教師による講話</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ながら運転」時の速さと距離に触れながら危険性を伝える 今後、学習するエネルギーに触れながら、運動する物体が自らに及ぼすエネルギーと他に与えるエネルギーの影響や危険性を伝える 今後に行う課題解決に向けた具体的な取組への意欲をもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> 教科等の学習と関連させる。 算数・数学の学びが活用されていることを意識させる。今後の理科の学習に関連させ、走る自転車がもつ運動エネルギーの大きさについて触れ、その危険性を説明する ◎算数・数学等の教科の学習が活用されていることについて、教科の学習の大切さを述べている。 (ワークシート) 「ながら運転」による事故の新聞記事等を活用する

(3) 期待する生徒の反応

「ながら運転以外にも、危険な自転車運転はあると思う。自分が事故に遭うだけではなく、事故を起こすかもしれない。法律があるから、警察に捕まるからではなく、自分や他の人の大切な命を大切にするため、私は危険な自転車運転をしないようにする。」

資料写真

< 研究大会会場の様子 >

講演会場（中学校体育館）



公開授業の様子 > ※生徒の顔が分からないように撮影しています

第2学年 保健体育保健分野【交通安全】公開授業 場所：屋外運動場

「自転車の ながら運転の危険性を考え、その危険性を伝えよう1」

主旨：なぜ、自転車の ながら運転が危険なのかを、運転体験を通じて考える

